

# 洞野 志保

## Profile

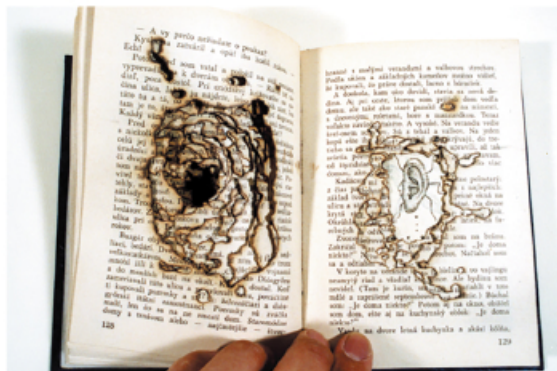
1977 年生まれ。人の「耳」と「手」の部分にことさら執着を持ちながら、繊細な線と淡い単色が印象付けられるリトグラフや銅版画などの作品を主に発表。スロバキア共和国ブラチスラバ市在住。

## 参考作品

実際の出品作品とは異なります

## 耳羽蟲杜鑑（みみはねむしずかん）

2004 年 古本、布、銅板、紙 11.5×16.5×1.7cm



青く染めた和紙を張った表紙に、「耳羽蟲杜鑑（みみはねむしずかん）」という書名と、この架空の虫の姿を腐蝕によって刻んだ銅板が埋め込まれ、開くと、架空の出版社「蜉蝣舎」の名やこの虫の生態の説明文が現れる。ここで使われている本は、作者が住むスロヴァキア語による古本だが、その本文の最初のページには数ミリの大きさの穴が線香で焼いて開けられ、ページをめくるごとにその穴は徐々に、そして加速度的に大きく広がってゆく。さらにページ半ばにいたっては、ローシャッハで描かれるイメージのように複雑なかたちとなり、ついにはこの架空の虫の姿（耳に細い手足が生えたもの）を刷った銅版画の断片が現れる。